

通じ合い、響き合い、創り合う対話力の育成 ～子供たちが夢中になって語り合う対話型授業を目指して～



8:50

9:15

10:00

10:05

10:25

10:50

11:50

〈時程〉

受付

公開授業

移動

アトラクション

研究発表

講演会

学校長挨拶

文京区立千駄木小学校 永井 昌美

小学生たちが進む社会は、多様な価値観や文化の人々が共存し、様々な分野で力のある者が幅をきかせたり、利害の対立が起こったりする厳しい社会です。このような時代で活躍するには、多様な人々と希望をもって共に未来を創り上げていく力を身に付ける必要があります。

本校では、平成24年度以来、「対話型授業の創造」を目指して日々の授業づくりを追究しています。対人関係に苦手意識をもつ現代の子供たちを、次代を担うたくましい人間に育てるためには、対話力の育成が必要であるとの考えに基づいた研究です。

本校の実践はまだ未熟であり、多くの皆様にご意見ご指導いただき、さらに子供たちに確かな力をつけていきたいと願っております。今後ともよろしくお願いいたします。

平成27年2月14日
文京区立千駄木小学校

研究の概要

千駄木小では、取り組むべき課題を「子供が主体的に学ぶ対話型授業」と定めて3年間の研究を進めてきました。

対話型授業とは??

千駄木小では、対話を「様々な人とかかわり合い、相手と共に新しい知恵や価値、解決策を創り上げていく活動」と捉え、ペア、グループ、学級全体など様々な形態の対話を取り入れた授業として取り組んでいる。

【児童を取り巻く現代の課題】

- ・多様な文化や価値観をもち、多様な人と共生・共存できる対話力の育成。
- ・対人関係に苦手意識を持つ子供の増加。他者と共生する力を育むことの重要性。

千駄木小の学校教育目標

- ◎深く考え正しく判断する子ども
- ◎心豊かで思いやりのある子ども
- ◎礼儀正しく節度ある子ども
- ◎健康でたくましい子ども
- ◎勤労を尊び助け合う子ども

【児童の実態】

- ・自分の考えを相手に伝える、聞く、話し合うことに意欲をもって取り組めるようになってきた。
- ・自分の考えをもつことの難しい児童もいる。
- ・「聴く力」が高まってきた。全校朝会や集会、授業中の話を聞く態度がよくなった。
- ・「対話タイム」の成果が出てきた。対話力を支えるスキルが相手に伝えようという自信につながる。
- ・相手に反論されるとあきらめてしまう児童が多い。
- ・話し合い活動は活発になってきたが、内容を深めようという「深い対話」への意識が必要である。

「深い対話」とは?

友達と対話することを通して、自分の考えを深めたり、広げたり、新しい考えを共に創り出したりする対話のこと。対話を通して個々の思考が変容するような「深い対話」が、豊かな学びにつながると考えている

【学習指導要領総則】

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。

平成26年度
研究主題

通じ合い、響き合い、創り合う対話力の育成
～子供たちが夢中になって語り合う対話型授業を目指して～

目指す児童像

低学年	通じ合う	自分の思いをもって、楽しみながら伝え合うことができる子。
中学年	響き合う	互いの考えを受け止め合い、自分の考えに生かそうとする子。
高学年	創り合う	根拠をもって話し合い、新たな考えや解決策を創り合うことができる子。



研究の柱①

対話スキル

- 毎週の「対話タイム」の取り組み
- 毎月の音読
- 日常の指導

研究の柱②

授業研究

- 自己内対話と他者との対話
- 教師のコメントによるゆさぶり

研究の柱③

言語環境

- 教室掲示
- 返事・挨拶・言葉遣い

研究の経過

千駄木小では、全ての教科で対話型授業を目指して授業改善を図ろうという教師の願いにより、全教科で研究授業を行いました。そこで、学年ごとの対話の系統性をふまえ、研究教科を定めて研究を進めてきました。

【各学年の研究教科】

低学年

中学年

高学年

通じ合う時期

1年：はっきり話す・正しく聞く
2年：対話の楽しさを味わう

国語
生活

響き合う時期

3年：自分の考えをしっかりともち
4年：友達の考えを取り入れる

算数
算数

創り合う時期

5年：新しい考えを共に作り出す
6年：深く考えよりよい解決策を創る。
※6年は積み上げてきた対話力を
各教科に生かすため3教科で実施

総合
家庭
社会
理科
国語

【対話型授業の3つの型】

教科や単元のねらいに応じて対話の形態を選択し、指導計画を作成する。

対話中心型

単元や一単位時間の授業そのものが対話を中心とする授業。
例：ディベート、パネルディスカッション、ポスターセッション、学級会、読書座談会など

プラスワン型

一斉授業の形の中に対話を一部分だけ取り入れる授業。
例：作文を書く前にテーマについてペアで話し合う、算数の解法をグループで話し合うなど

スパイス型

全体的話し合いの中に教師が意図的に対話を散りばめる形の授業。
例：物語の主題の話し合いで多様な視点を引き出す、実験結果について共通点や相違点をつき明らかにするなど

【授業研究の流れ】

事前研究

- ・単元のねらい分析→教材選定→指導案作成
- ・大学研究室で講師の先生にご指導を受ける→対話場面設定
- ・指導案提案→研究推進委員会検討→再提案
- ・事前授業計画提案→事前授業・参観→再検討
- ・研究主任と打ち合わせ→「授業の視点」作成・提案

研究授業

- ・「授業の視点」に沿って参観→分科会検討
- ・授業分科会提案→授業者自評→協議会（視点に沿って）
- ・指導講評→「今日学んだこと」提出

事後研究

- ・「今日学んだこと」配布 ・協議会記録配布
- ・事後授業参観 ・授業写真掲示 ・指導案修正
- ・成果と課題検討 ・児童の変容検討



協議会では、教員同士でも対話を心がけました。ベテランも若手も一緒になって語り合い、子供たちにとって楽しい授業、学びのある授業ができるようにしています。



【平成26年度 研究授業】

月日	分科会	教科	内容
4/16	6年	国語	「レベルアップスピーチをしよう」
6/9	2年	生活	「生き物大好き～めざせモルモット博士」
6/17	6年	理科	「ものの燃え方」
7/14	専科	家庭	「おいしいね毎日の食事」
9/10	5年	総合	「世界とつながろう」
9/22	3年	算数	「かけ算のひっ算を考えよう」
10/14	4年	算数	「わり算の仕方を考えよう」
10/28	1年	国語	「おすすめの本をしょうかいしよう」
11/27	6年	社会	「長く続いた戦争と人々の暮らし」

※講師は全て目白大学教授多田孝志先生にご指導いただいた。
※専科は平成24年度に音楽、25年度に図工の研究を行っている。

研究の柱① 対話スキル

千駄木小では週に1回、朝学習の時間に「対話タイム」の時間を設けています。対話力を向上させるためのスキルを育てるため、詩の音読や、対話の基礎・基本を育てる活動を各学年で行っています。

【対話タイム】

毎週金曜日の朝学習の時間の15分間を「対話タイム」とし、全学級が対話力を高めるスキルトレーニングを行っている。①対話の土台をつくるスキル ②聴く力を高めるスキル ③話す力を高めるスキルの3つを設定し、各学年の実態やその時期につけたい力に応じて、それぞれのスキルを選択する。子供たちが「楽しい！やりたい！」と思えるゲーム的な要素を多く取り入れている。

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	7月	6月	5月	4月	3月
対話の土台をつくるスキル	対話の土台をつくるスキル	対話の土台をつくるスキル	対話の土台をつくるスキル	対話の土台をつくるスキル	対話の土台をつくるスキル	対話の土台をつくるスキル	対話の土台をつくるスキル	対話の土台をつくるスキル	対話の土台をつくるスキル	対話の土台をつくるスキル	対話の土台をつくるスキル
聴く力を高めるスキル	聴く力を高めるスキル	聴く力を高めるスキル	聴く力を高めるスキル	聴く力を高めるスキル	聴く力を高めるスキル	聴く力を高めるスキル	聴く力を高めるスキル	聴く力を高めるスキル	聴く力を高めるスキル	聴く力を高めるスキル	聴く力を高めるスキル
話す力を高めるスキル	話す力を高めるスキル	話す力を高めるスキル	話す力を高めるスキル	話す力を高めるスキル	話す力を高めるスキル	話す力を高めるスキル	話す力を高めるスキル	話す力を高めるスキル	話す力を高めるスキル	話す力を高めるスキル	話す力を高めるスキル

対話タイムを繰り返していくことにより、安心して話せるようになってきました。とくに相手の目を見て聞く、話している人の方向を向く、反応する等の「聴く力」の向上を重視しており、全校で取り組むことで、正確に聴き取れるようになりました。

スキル表

各学年の発達段階に合ったスキルを表にしている。この中からその月に応じて重点項目を定め、スキル主任が「今月のスキル」を学級担任に配布している。



土台のスキル

対話の基礎である、安心して話したり聞いたりできる雰囲気を作る。

【スキル事例】

*新しい友達とあいさつできる。

「はじめまして、こんにちは」

隣の人とじゃんけんをして勝った人から自己紹介をする。

*児童が安心して話せる場をつくる。

「握手。今日のあなたはすてきです。」

2人組で握手をして挨拶をする。じゃんけんをして、お互いを3分間褒め合う。

*即興的な会話を楽しめるようになる。

「1分間おしゃべり」

2人ずつ向かい合って立ち、合図で1分間おしゃべりをする。

聞くスキル

話の要点を落とさずに聞くことや、相手が話したくなる聞き方を学ぶ。

【スキル事例】

*話の内容を要約する。

「あなたが伝えたかったことは」

夏休みの出来事についてペアで交互に話し、互いに要約する。

*正確に聞き取る力を高める。

「連絡の聴き取り」

口頭で伝えられた内容を正確に書き取る。

「テレパシーゲーム」

絵を口頭で説明し、絵描き歌のように一緒に書く。終わったらみんなで見合う。

*メモをする力を高める。

「聴き取りカード」

クラスの友達の好きな物、得意な物などを聞いてまわる。

*集中力を養う。

「1分間の聴き取り」

1分間聞き取った音をできるだけたくさんメモする。

話すスキル

はっきりと話すことや、相手に伝わりやすい話し方を学ぶ。

【スキル事例】

*質問する力を高める。

「10の質問」

冬休みの思い出についてペアで話し合う。3分間次々と質問する。

*自分の考えをしっかりと相手に伝える。

「十年後の自分」

十年後の自分の姿とそのプロセスを紙に書き、四人一組になって対話をする。その後、理想の姿に向けて話し合う。

*グループで意見を構築する。

「〇〇の時にどうするか」

10～12の物のなかから、必要な物の優先順位を話し合う。

*楽しく声を出す。滑舌よく話す。

「早口言葉」

「かっぱ」「いるか」「ことこ」などの詩を暗唱する。



ノンバーバルコミュニケーション（言葉以外で伝える力）に気付く。

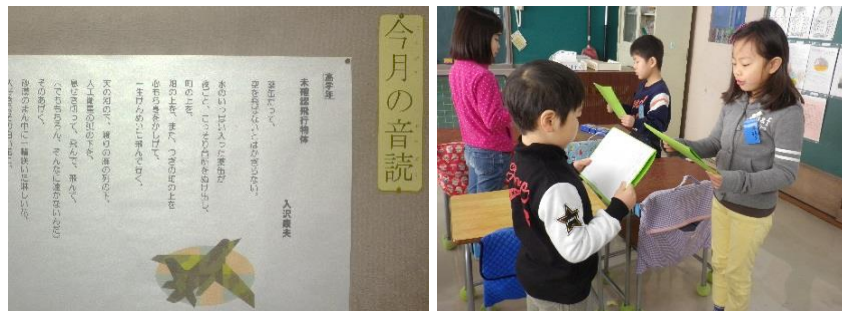
「誕生日チェーン」

1月1日～12月31日までの誕生日順に円形に並ぶ。その間は黙ったまま。

【日常の指導】

週に一度の対話タイム以外でも、日々の授業において対話力を高めるための様々な工夫を行っています。日常の指導に取り入れることで話すこと・聞くことの対話スキルの定着を図り、対話力の基礎を育てます。

○毎月の音読



- ・低、中、高学年で毎月読む詩を決め、配布・掲示している。対話タイムや国語の授業の際の導入、朝の会等で音読を行っている。
- ・声の出し方や滑舌を教師が指導し、声を出すトレーニングにつながるようにしている。

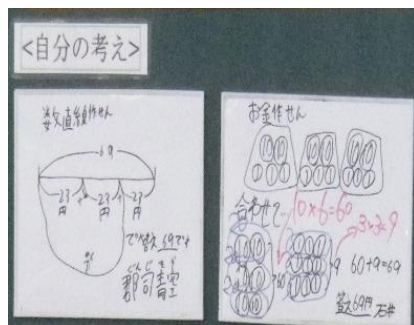
○相手に分かりやすく伝える工夫

<デジタルカメラの活用>



各教室に1台、児童用に20台デジタルカメラを常備し、調べ学習や発表の際に活用している。教室のテレビとケーブルをつなぎ、すぐに画像が見られるようにしている。

<図やイラストの活用>



自分の考えを書く際には、文章の他にイラストや図を使って、相手に分かるように工夫して表現するよう指導している。

○話し合いの可視化

<ホワイトボードの活用>



- ・教室にミニホワイトボードとマーカーを常備。グループでの対話の際に、話し合いの経過を記録したり、話し合った結果を書き残したりする。
- ・各グループや個人の考えをホワイトボードに書いてから発表することにより、他のグループの考えを全体で共有したり、自分たちとは違う考えを把握したりすることができる。

<付箋の活用>



ブレインストーミングによるアイデアを整理する際には、付箋を使う。初めにたくさんアイデアを出し、その後分類することで、グループの考えを明確にする。

<写真に書き込む>



資料から気付いたことを話し合う際には、写真を拡大印刷したものにも意見を書き込んでいく。個々の気付きや考えをグループで共有することができる。

研究の柱② 授業研究

今年度は今までの課題であった「深い対話」を目指して対話型授業を研究しています。子供たちが学んだことを心から実感できるよう、授業研究を行ってまいりました。

【対話力を育成する重点ポイント】

自己内対話と他者との対話

【自己内対話】

自己と向き合い、一人で考える活動。沈黙の中でじっくりと考える。

- ①課題をつかみ、自分の考えをもつ。
- ②学習を振り返り、自己の考えを再組織化する。

くり返し

【他者との対話】

ペア・グループ・学級全体など他者と話し合って考える活動。

- ①ペア・グループで話し合って考えを確かめる。
- ②学級全体で話し合う。
 - ・各ペアやグループの報告を聞く。
 - ・学級全体で深める。

※自己内対話と他者との対話の往還が「深い対話」を生むと考える。
 ※1単位時間の中に自己内対話と他者との対話の両方を必ず設定し、指導計画を作成した。

教師のコメントによる価値付けやゆさぶり

対話が停滞している時、流れそうな時、まとまりかけた時に教師はゆさぶりのコメントを行う。話し合いを浅いまま終わらせるのではなく、教師は意図的に対立場面や多様な視点を引き出し、「深い対話」を導く。

【コメント例】

- 共通「～と似ているところは？」「〇〇さんと似ている人は？」
- 相違「～との違いは？」「〇〇さんと違う人は？」
- 理由・根拠「どうしてそう思ったの？」「どこから考えたの？」
- 焦点化「ここに注目して考えよう。」「しぼって話し合おう。」
- 合成「～～と～～を合わせたらどうなるだろう。」
- 具体化「たとえばどんなものがある？」「詳しく言うと？」
- 一般化「全体から考えるとどんなことが言えるだろう？」
- 再考「もう一度～～について考えよう」
- 広げる「他の考えはある？」

【教師の見取りと児童の変容】

教師は意図的な指名やコメントをするために、児童の変容を見取り評価・分析を行う。その分析をもとに課題を設定し次時の指導に生かす。

チェックシート

自分の考えをノートに書く。	○	1つ書けただけで すばらしい!!
自分の考えを説明する。	◎	
友達の考えを聞いて質問や感想を言う。	△	

◎…とてもよくできた ○…少しできた △…あまりできなかった

学習感想

わたしは今日自分の考えが一つしかかかれなかったけどみんなはいっぱい考えていたのですごくいいと思いました。

で、今日、友達の考えをうかがった。

学習感想

授業の振り返りとして児童は学習感想を書き、教師が評価をする。

戦争中、人々はどのような思いで生活していたのだろうか。（自己内対話）

・戦争に勝ってほしい ・敵軍から被害を受ける ・勝利を確信している（等身） ・正義の味方になった ・勝利はもうすぐだ ・勝利は自分の手 ・勝利は自分の手で勝ち取った	・勝利した人々は嬉しい ・敵軍から被害を受ける ・勝利に行くのは大変 ・勝利の喜びは自分の手 ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った	・負けたくない ・負けたくない ・負けたくない ・負けたくない ・負けたくない ・負けたくない ・負けたくない
・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った	・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った	・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った ・勝利は自分の手で勝ち取った

児童一人一人の考えを教師が把握し、評価・分析することで、指名する順番やコメントを考えます。深い対話を行うためには、このような事前準備がとても大切だということがわかってきました。

座席表型評価補助簿

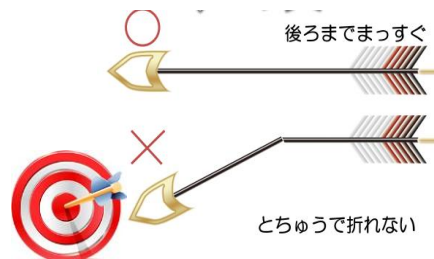
児童の学習感想や授業の様子を座席表に記録し、ここからコメントや指名の計画を立てていく。



子供たちが生活する学校内の様々な言語環境を整えることで、場面や状況、相手に応じて正しい話し方や聞き方ができるようにしています。

職員室や事務室など入室の仕方の話型。
児童が正しい言葉遣いで用事を伝えられ
るよう、教職員全員で指導を行う。

話をするときの声の大きさを示し、状況に応じて声の大きさを意識できるよう指導を行う。



話をするときには語尾まではっきりと伝えることができるよう、「的に向かって声を飛ばす」「声の矢が途中で折れない」など可視化して指導を行う。

友達の考えに関連付けて言うとき			
まとめる	つなげる 広げる	言いかえる	比べる
・まとめる ・. ・. ・.	・それなら ・さらに ・.>と.<をつなげると ・. ・. ・.	・具体的にいうと ・. ・全体的に見ると ・. ・○○の立場から考えると ・. ・.	・.>と.<を比べると ・. ・. ・.

※結論を先に、次に理由をつけて話す

低・中・高と学年に応じて、人前で話をするときの話型を掲示。低学年では、自分の考えを伝えること、中・高学年では対話を深めるために広げたり関連付けたりする話型を示している。



相手にとって嬉しい反応をしたり、詳しく聞き出したるために、反応の言葉や質問の視点などを示している。



話を聞くとときに気を付けることを、視覚的に分かりやすく揭示している。



毎週の全校朝会では6年生の代表が大きな声で挨拶を行い、全校児童も一緒に挨拶をする。先に挨拶、その後に礼をする「先語後礼」を行っている。言葉と同様、気持ちを込めて挨拶ができるように指導を続けていく。



毎日、各教室で教師は一人一人と目を合わせて健康観察を行う。校長室では、その日の日直が健康観察板を渡し、今日のめあてを伝える。

どの学年も、
礼儀正しく、入
退室ができ、感
心しています。
めあての伝え方
も具体的になり
日々の指導の積
み重ねの大切さ
を感じています



教科実践事例① 国語科

1年「おすすめの本をしょうかいしよう」



【単元のねらい】

友達に紹介したい動物の本を選び、自分の好きなところやその理由を紹介することができる。

【読書指導における対話型授業モデル】

本に興味をもつ

教師の読み聞かせやブックトークを聞き、本に興味をもつ。(自)

好きな本を読む

- ・テーマに沿って本を読み、好きな本を選ぶ。(自)
- ・好きな本についてペアで話し合い、一緒に読む。(他)

交流する

- ・おすすめの本を紹介し、感想を伝え合う。(他)
- ・紹介された本を読み、興味を広げる。

※ (自) : 自己内対話 (他) : 他者との対話

【単元の流れ】

ブックトークを聞き、本に関心をもつ。本を紹介する時の話型を知る。

好きな本、お気に入りの本を見つけ、紹介の仕方を考えて、練習する。

クラスや学年の友達におすすめの本を紹介し、感想を伝え合う。

本時

【指導のポイントと手だて】

雰囲気作り

- フラフープの中に2人で座る。
- 始め・終わり・交代の時に、音楽を流す。

相手意識

- 話型（基本の話し方）の指導。
- 他学級の児童とのペアリング。



話す聞くスキル

- 「聞き方あいうえお」「話し方あいうえお」の掲示の活用
- 「反応の言葉」の掲示の活用。
- 担任によるモデリング（本の紹介）。

【本時の指導(7/8時)】

対話中心型

学習活動

- ①学習のめあてをつかみ、聞く時の反応の仕方を確認する。

○指導上の留意点◆評価

- 紹介する本の表紙のコピーを掲示し意欲を高める。
- 反応の言葉の掲示を参考にさせる。

おすすめの本を紹介しよう・読みたい本を見つけよう

- ②本の紹介をする。
(1 ペア7分で3回くり返す)
(他者との対話)

- ③感想を発表する。

<予想される深い対話>

- ・～さんが、真剣に聞いてくれたので、嬉しかったです。
- ・自分では気が付かなかったことを教えてもらって、もう1回読んでみたくなりました。
- ・～さんの本は読んだことがある本だったので、その本についてたくさん話すことが出来て楽しかったです。

- ④学習を振り返り、学習感想を書く。(自己内対話)

- 途中、一度止めて聞き方の良いペアを全体に紹介し、聞き方の意識を高める。
- ◆おすすめの場面や文章と、選んだ理由を結び付けて紹介したり、友達の本の紹介を聞いて反応を返したりすることができる。
- 本の紹介をした感想や読みたいと思った理由を発表することで本への関心を高める。

<教師のコメント>

- ・どうして読んでみたいと思ったの？
- ・感想を言ってもらえて、どのように思ったかな？
- ・どんな工夫をして紹介したかな？
- ・2人でどんなことを話したのかな？

- 本の紹介をしたり、聞いたりした感想を書くようにする。

教科実践事例② 算数科

3年 「かけ算の筆算を考えよう」



【単元のねらい】

既習事項を基にして、2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを活用できる能力を伸ばす。

【算数科の指導における対話型授業モデル(1時間ごと)】

課題把握・自力解決

- ・解決の見通しをもつ (他)
- ・自分の考えを書く。(自)

共有・ねりあげ

- ・互いの考えを伝え合い、理解し合う。(他)
- ・互いの考えを比較し、よさやきまりを見つける。(他)

検証・適用、まとめる

- ・その方法でできるか確かめる。(自)
- ・自分にとってよりよい方法を見いだす。(自)

※ (自) : 自己内対話 (他) : 他者との対話

【単元の流れ】

何十、何百のかけ算の計算の仕方を考える。

2けたの数に1けたの数をかける計算の仕方を考え、筆算との共通点を見つける。

3けたの数に1けたの数をかける計算の仕方を考える。

本時

【指導のポイントと手だて】

雰囲気作り

- 教師のコメントによる価値付けや賞賛。
- 身近な問題場面の設定。

自分の考えをもつ

- ペアやグループで互いの考えを説明し合う。
- 自力解決の際に友達の考えを見に行く。
- 問題に向き合う時間・ノートを書く時間の確保。
- 既習事項を生かす。

相手意識

- 多様な対話の相手・形態を設定する算数席。
- みんなに聞こえる声で簡潔に話す。
- 図やイラストを使って説明する。

【本時の指導(3/14時間)】

プラスワン型

学習活動

○指導上の留意点 ◆評価

- ①めあてをつかみ、方法の確認をする。

- 式、図、絵、言葉など多様な説明の仕方を確認する。

23×3の計算の仕方を考えて説明しよう。

- ②自力解決をする。
(自己内対話)
足し算作戦、お金作戦、アレイ図作戦、位分け作戦、さくらんぼ作戦

- ノートには友達に説明する際に分かりやすいように、短い言葉で書くようにする。

- ③ペアで説明をする。
(他者との対話)

- 伝える時・聞く時のポイントを確認する。
- ・相手にノートを向ける。
- ・書き足しながら説明する。
- ・「ここまでは分かった？」と確認する。

- ④学級全体で話し合う。
(他者との対話)
・友達の説明を聞く。
- ・質問したり、よいところを発表したりする。

<予想される深い対話>

- ・今まで習ったことを使っているね。
- ・十の位と一の位に分けて計算するほうが速くて簡単だ。
- ・どの考えも20×3は共通している。

<教師のコメント>

- ・20と3に分ける方法以外はあったかな？
- ・どうして20と3に分けるの？

- 友達と活動して考えたことや学んだこと(分かったこと、よさ、もっと知りたいこと)など視点をしばって振り返るようにする。

- ⑤学習を振り返り、学習感想を書く。(自己内対話)

- ◆自分の考えを友達に説明することができる。

教科実践事例③ 社会科

6年 「長く続いた戦争と人々の暮らし」



【単元のねらい】

日本が行った戦争について調べ、当時の人々の生活の様子を知り、人々の思いや気持ちを考えることができる。

【社会科の指導における対話型授業モデル】

つかむ

- ・社会的事象がなぜ起こったかを予想する（自）
- ・予想したことを交流する（他）

調べる

- ・学習問題について資料を使って調べる（自）
- ・調べたことを根拠に、学習問題や社会的事象について話し合い、社会的事象の意味や原因を考え理解する。（他）

まとめる

- ・調べてきたことを根拠に、社会的な問題の解決策を考え話し合い交流する。（他）

※（自）：自己内対話 （他）：他者との対話

【単元の流れ】

日本がどのように戦争に向かっていったのかについて、資料等を使って調べる。

「戦時中の人々の思い」について写真をもとに考え、話し合いを通して考えを深める。

戦後の日本について、資料を使って調べ、日本が戦後どのように復興したのかについて知る。

本時

【指導のポイントと手だて】

雰囲気作り

- 話し合う必要性のある課題。
- 対話を深めるための意図的なグルーピング。
- 意欲をかきたてる教師の励ましやコメント。

根拠をもつ

- ゲストティーチャーの活用。
- 国民の様子がわかる資料、写真の精選。
- 調べ学習の仕方、グラフの見方等の指導。

話す聞くスキル

- 歴史プレゼンテーションによる、知識の習得。
- 電子黒板を使って写真を拡大し指し示しながら説明する。

【本時の指導(5/8時)】

スパイス型

学習活動

○指導上の留意点 ◆評価

①めあての確認をする。

※前時に写真を見て考えを書く時間（自己内対話）を取り、個人の考えはもたせておく。

戦争中、人々はどのような思いで生活していたのだろうか。

②写真から考えた「人々の思い」をグループで話し合う。（他者との対話）

○座席表型評価補助簿を用いながらグループを細かく回り、助言をする。

③「戦時中の人々の思い」について学級全体で話し合う。
・グループの報告を聞いて複数の資料を関連付ける。
・学級全体で考えを深める。（他者との対話）

○子供たちのホワイトボードの考えをもとに、指名計画を立て全体での対話が深まるよう、意図的な指名をする。

〈教師のコメント〉

- ・似たような意見はある？
- ・同じようなことはない？
- ・今の発言を聞いて考えが変わった人はいるか？
- ・新しく考えが出てきた人はいるか？
- ・今の意見と反対の考えはないかな？

＜予想される深い対話＞

- ・国民みんなが戦争に向かっていたので、当時からしたら当たり前の生活だと思う。
- ・戦争に参加しながらも口には出せず、心の中では辛い思いを抱えていたと思う。

④学習を振り返り、学習感想を書く。（自己内対話）

○全体での対話では途中でペアでの話し合いを入れ考えを深める。

◆話し合いを通して、多様な戦時中の国民の思いや気持ちを考えることができる。

教科実践事例④ 理科

6年「ものの燃え方」



【単元のねらい】

燃焼による現象についての要因や規則性を推論しながら調べ、見いだした問題を計画的に追究したり、ものづくりをしたりする活動を通して、物の性質や規則性についての見方や考え方を養う。

【理科の指導における対話型授業モデル】

疑問・課題・予想

- ・ 自然事象について疑問や課題を見つける(自)
- ・ 課題の解決方法などを検討する。(他)

実験・問題解決

- ・ 実験結果から考えられることを見つける(自)
- ・ グループで実験をしながら方法の検討をする。(他)
- ・ 全体で考察をする(他)
- ・ 学習を振り返り、学習感想を書く。(自)

活用・発展

- ・ 学習したことを生活に活用する。(自)
- ・ 活用の仕方を検討する(他)

※ (自) : 自己内対話 (他) : 他者との対話

【単元の流れ】

割りばし1膳を
マッチ1本の炎で燃
やしてみよう

ものの燃え方について学習する。
・酸素の必要性
・下から上に向かって燃える
・マッチの使い方

学習したことを
生かして、割りば
し1膳をマッチ1本
の炎で燃やしてみ
よう。

本時

【指導のポイントと手だて】

雰囲気作り

- 「絶対に成功させたい」と思える題材提示。
- 初めの失敗を取り返すための再挑戦の場の設定。
- 個人実験とグループ実験を組み合わせ、語り合いながら実験をする。

根拠をもつ

- 既習事項やもっている知識、生活経験を生かす。
- 初回の実験結果から考える。
- 実験結果を撮影した画像をもとに説明する。

話す聞くスキル

- 理科用語を使って説明する。
- 科学的な考え方を表現する機会をもつ。

【本時の指導(10/10時)】

プラスワン+スパイス型

学習活動

○指導上の留意点 ◆評価

①学習のめあてを確認する。

○割りばし、マッチ、アルミホイル、

割りばし1膳をマッチ1本で燃やす方法を考えよう。

②実験の方法を考える。
(自己内対話)

○空気の通り道を考えて方法を考えるようにする。

③グループで方法を話し合ってから実際に割りばしを燃やして確かめ、実験結果について検証する。
(他者との対話)

○メンバーの考えた方法を比べて、どれがどんな理由で燃えやすいかについて根拠をもって話し合うように助言する。

〈予想される深い対話〉

- ・ 初めの実験の時火がうまくつかなかったから、下から点火するようにしたほうがよい。
- ・ 燃焼実験で習ったように、空気の通り道をしっかり作ろう。
- ・ 火がついても温度が低いと燃えないから、周りを囲って温度が上がるようにしよう。

〈教師のコメント〉

- ・ 物が燃える条件は何だったろう？
- ・ 温度について考えた人はいますか？
- ・ 空気との関連も考えてみよう。

◆グループで話し合い、より良い実験方法を考え出すことができる。

○報告に写真を使うことで情報を共有する。

○同じような組み方で燃えなかったわけを話題にする。

○式、図、絵、言葉など多様な説明の仕方を確認する。

○ノートには友達に説明する際に分かりやすいように、短い言葉で書くようにする

④学級全体で実験結果について報告し、話し合う。
(他者との対話)

⑥学習を振り返り、まとめの学習感想を書く。
(自己内対話)

教科実践事例⑤ 家庭科

5年「おいしいね毎日の食事」



【単元のねらい】 毎日の食事のとり方をふり返り、健康で楽しい食生活を送れるようにすると共に、自分でご飯とみそ汁が作れるようにする。

【家庭科の指導における対話型授業モデル】

つかむ・調べる

- ・単元全体の見通しをもつ。(自)
- ・家庭での方法をインタビューして調べる。(他)

気付き深める

- ・学習問題について資料や家庭でのインタビューを根拠に話し合い、いろいろな方法があることを理解する。(他)

実践する

- ・学習したことを実習したり、日々の生活の中で実践したりして活用していく。(自・他)

※(自)：自己内対話 (他)：他者との対話

【単元の流れ】

本時

おいしいみそ汁について考えよう。

おいしいご飯のたき方を知ろう。

毎日の食事を見つめよう。

【指導のポイントと手だて】

雰囲気作り (意欲付け)

- 写真や実物を活用した、出来上がりが明確な教材提示。
- 完成までの見通しがもてるワークシートの工夫。

相手意識

- 家族への思い・友達への思いを大切にする。
- 相手の話の意図や理由を大切に聞く。

話す聞くスキル

- グループで話し合ってまとめるスキル。
- どこで折り合いをつけるか考えながら話し合う。



【本時の指導(3/9時)】

プラスワン+スパイス型

学習活動

○指導上の留意点 ◆評価

- ①学習のめあてを確認する。 ※①②は前時に指導しておく。

グループオリジナルみそ汁の計画を立てよう。

- ②家族に作りたいみそ汁を考え、ワークシートに記入する。(自己内対話)

- 家族が好きなものや栄養や味のバランスなどを考え、家族のために作るという視点をもたせる。

- ③グループで話し合ってみそ汁の具材を決める。(他者との対話)

- 事前のワークシートを参考にし、それぞれの思いや理由を聞くようにする。

〈予想される深い対話〉

- ・〇〇さんの考えたみそ汁は彩りがよいね。私もこの具材を入れてみたいな。
- ・栄養バランスはどの家族にも必要だから、一番に考えよう。
- ・家族を喜ばせるために、この食材を足してみよう。

〈教師のコメント〉

- ・味のバランスも考えて決めよう。
- ・どんなみそ汁を家族に食べさせたいのかな？
- ・どうしてその具材に決めたの？

- ◆グループで話し合い、理由を明らかにしてみそ汁の具材を考えられる。

- ④学級全体で確認し、他のグループの計画を見合う。(他者との対話)

- 自分の意見を出しながら、グループで折り合いをつけて話し合いができるようにする。

- ⑤学習の振り返りをする。(自己内対話)

- 自分たちのグループとの違いや、実習への意欲について書くようにする。

教科実践事例⑥ 生活科

2年「いきもの大すき♡～めざせ！モルモット博士」



【単元のねらい】

飼育しているモルモットに対して愛着をもち、気付いたことを共有し、今後の飼育活動に生かそうとする。

【生活科の指導における対話型授業モデル】

自分の思いをもつ

- 対象(学習材)と存分に関わる。(自)
- 友達と交流し、新たな考えから自分の思いや願いを広げる。(他)

体験を繰り返す

- 対象との関わりの中で、気付いたことや思ったことなどをカードに表現する。(自)
- 少人数で話し合う。(他)
- 対象と関わる。(自)
- 学級全体で交流する。(他)

気付きを深める

- 学習を振り返り、学習感想や対象に対する手紙などを書く。(自)
- 友達と交流する。(他)

※(自)：自己内対話 (他)：他者との対話

【単元の流れ】

モルモットと出会い、飼育に必要なものや、飼い方などを調べる。

↓
飼育活動

継続した飼育の中で得た発見を伝え合い、さらに今後の飼育活動に生かそうとする。

モルモットの気持ちや、季節に合った飼い方、今後の飼育について考える。

本時

【指導のポイントと手だて】

雰囲気作り

- 〇集まって聞く、机の形を変えるなどの場の設定。
- 〇自由に友達と話をするフリースークの時間。
- 〇伝えたい、聞きたいと思う話題設定。

相手意識

- 〇ペアや小グループなど相手を変えて話す。
- 〇教室掲示やICTを活用して、友達との気付きを共有する。

話す聞くスキル

- 〇教師がモデルを示すモデリングの活用。
- 〇反応の仕方や、問い返しなどの例を示し、掲示する。



【本時の指導(6/10時間)】

対話中心型

学習活動

- 〇日々の飼育活動でモルモットに触れたり、観察したりしてモルモットへの思いをもつ。(自己内対話)

〇指導上の留意点 ◆評価

- ※前時に自分の思いをもっておくようにする。

モルモットのお世話をして、気付いたことを伝え合おう。

- ①めあての確認をする。

- 〇伝えるとき、聞くときのポイントを確認する。

- ②世話をしてきて気付いたことをグループで伝え合う。(他者との対話)

- 〇話すポイントをカードに示し、伝え合いが活発に行えるようにする。

- 〇気付きの質が違う児童でグルーピングをし様々な気付きを共有できるようにする。

<予想される深い対話>

- ・図鑑にはこう書いてあったんだけど、学校のモルモットは食べないね、好みがあるのかな。
- ・ハムスターに似てるけど違うところもたくさんあるね。
- ・〇〇くんはどう思ったの？教えてくれる。

<教師のコメント>

- ・自分しか見たことのない発見はまだあるかな？
- ・この間、話してくれた発見をみんなに伝えて。
- ・同じようなことはない？
- ・もっとよく見てごらん。
- ・新しく考えが出てきた人はいるかな？

- ③学級全体で気付いたことを発表する。

(他者との対話)

- 〇児童の気付きは教師が控えておき、予め発言を促す声かけをしておく。発言する心構え、自信をもたせておく。

- ④学習を振り返り、学習感想を書く。(自己内対話)

- ◆モルモットの特徴に気付き、愛着をもったり、好意的な見方ができたりする。

教科実践事例⑧総合的な学習の時間

5年「世界とつながろう」



【単元のねらい】

世界の国について日本との関わりを調べることを通して、地域における現状と問題を理解するとともに、相手の立場に立って自分たちができることを考えて実践できるようにする。

【総合の指導における対話型授業モデル】

課題設定

- ある事象から課題を見つける。
(自)
- 友達と話し合い、課題を明確にする。
(他)

情報収集・整理・分析

- 自分で調べた情報を整理・分析する。
(自)
- 分析した結果をもちより、グループで再検討する。
(他)
- 自分の考えを再構築する。
(自)

まとめ・表現

- 再構築した考えを他者に発表する。
(他)
- 新たな課題をもつ。
(自)

※ (自) : 自己内対話 (他) : 他者との対話

【本時の指導(11/24時間)】 プラスワン+スパイス型

学習活動

○指導上の留意点 ◆評価

①今日のめあてを確認する。

バリ島の人々の暮らしと自分たちの暮らしを比べ、仲良くなるヒントを見つけよう。

②外国人と仲良くするために必要だと考えることをワークシートに記入する。
(自己内対話)

○異文化の人々でも、仲良くなれる例の写真を示し、そのために必要な事(相手の立場や文化を尊重することや共通の話題を探ること)を考えさせる。

③グループで話し合い、考えたことを短冊に書く。
(他者との対話)

○個々の意見を大切にし、多面的な視点から考えることができるようにする。

④学級全体で、外国人と仲良くなるヒントについて話し合う。
(他者との対話)

○意図的に指名することで活発な対話を促す。

<予想される深い対話>

- 言葉や文化が全く違う国の人とでも、何かしらの共通点を見つけ、仲良くなれる。
- 仲良くなりたいという気持ちが一番大切だと思う。

<教師のコメント>

- 趣味が同じでないと仲良くなれないの?
- 言葉が通じないと仲良くなれないの?
- 仲良くなるポイントは何かな?

⑤学習を振り返り、学習感想を書く。
(自己内対話)

○異文化の人々と仲良く付き合っていくために大切なことを中心にまとめる。
◆異文化を受け入れようとする態度を取ることができる。

【単元の流れ】

本時

外国の人々と仲良くなるためのヒントを考える。

ゲストティーチャーの話や調べたことを基に、仲良くしていくために必要なことを話し合う。

友達と話し合ったことをもとに、仲良くしていくために必要なことを他者に提案し、アドバイスを受ける。

【指導のポイントと手だて】

雰囲気作り

- 話し合う必然性のある課題。
- 児童の興味関心に基づいたグルーピング。
- 机の形を変えるなどの場の設定の工夫。

相手意識

- 互いの意見や考えを尊重し合う。
- 相手の興味をひくような伝え方の工夫。

根拠をもつ

- 既習事項や生活経験と結び付ける指導。
- ゲストティーチャーの活用。
- 根拠となるような具体物の提示。



成果と課題

千駄木小学校が目指してきた「子供が主体的に学ぶ対話型授業」について、3年間継続して行ってきた研究における成果と課題です。

～5月・12月を比較して～

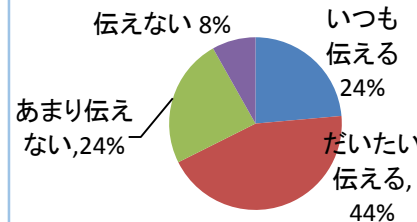
アンケート結果から

反対意見が出たときに自分の意見を伝えますか。

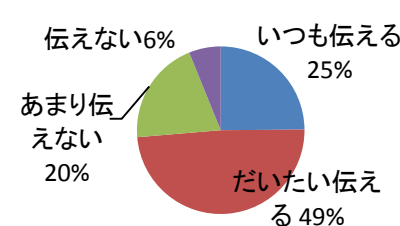
<アンケート実施項目>

- ①あなたは、人前で話すこと（スピーチ・プレゼン・発表など）がすきですか。
- ②あなたは、人の話を聞くことがすきですか。
- ③あなたは、話し合いをすることがすきですか。
- ④あなたは、友達の意見が自分の意見と違う時、自分の考えを伝えていますか。
- ⑤あなたは、言葉で伝える以外に相手に伝わりやすくするための工夫をしていますか。

<5月>



<12月>



・話し合いをすることを「好き」と答えた児童が増えた。自分の考えを分かってほしいからという理由から、友達の考えを知りたい、新しい考えが生まれるからといった理由が大半を占め、対話することで新たな考えが生み出される楽しさを味わえるようになったと言える。

・反対意見が出たときに、自分の意見を伝えると答えた児童が全体的に増えた。相手に分かってもらうために自分の思いを、伝えようとする意識が高まってきたと言える。

成果

児童の意識変化

- ・自己内対話と他者との対話を往還することで、自分の考えをもち、他者との伝え合う活動ができるようになった。ただ話し合いをするだけではなく、内容を深めようとする姿勢が育っている。
- ・授業中だけではなく全校朝会等でも話を聞く態度がよくなった。
- ・自分の考えを一方的に伝えるのではなく、相手の考えも取り入れて新たな考えを生み出そうとするようになった。
- ・「深い対話」にするために、少数意見を生かしたり、相手の考えをさらに理解しようと質問をすることができるようになってきている。（高学年）



課題

- ・話し合いを活発にすることができるようになったが、内容を深めるということについては、不十分なところがあるので、どのような場面でも積極的に自分の意見を伝えたり、多角的に物事を考えたりすることは、引き続き指導が必要である。

成果

教員の授業改善

- ・どの授業においても自己内対話・他者との対話を取り入れることを意識して授業を組み立てることで、自分の意見をもってから話し合う対話のテーマ、場、仕掛けなどの設定を共有し、授業に生かすことができた。
- ・教員間で授業を見合うことで、教師の授業改善を学校全体で図ることができるようになった。

課題

- ・対話にとらわれるあまり、教科のねらいから離れないようにするために、何を学ばせたいのかをしっかりとみつ。
- ・対話を深めるために児童一人一人の見取りや、コメントを継続的に行う。
- ・授業中に児童の多くの意見をまとめたり、新たな角度から考えさせる発問を磨く。

教師の意識が変わることで、児童にも大きな変化が出てきました。引き続き、子供たちが授業に対し、知的好奇心をもってかわり、考え、夢中になって語り合うことができる対話型授業を目指して、授業改善に取り組んでまいります。



研究に携わった教職員

校長	永井 昌美	副校長	菊池 健	
1 年	○馬場 千恵 砂田 芳一	静 恭子 熊井 庸子	小海 美郷	
2 年	○高橋有希子 松野 亜弥	○寺山恵里香 松本 則子	田口 朝子	
3 年	高草木輝子	沢田 恭一	○遠藤 悠弥	
4 年	松山 則和	風間 裕子	○松岡 利安	
5 年	多田 亮介 ○大森 臨	山田 恭子	安藤麻菜美	
6 年	○河西 勇弥	◎原 梨絵	相蘇 好	
専科	宝田 雄介 中村 浩美 崎田 浩之	○佐藤 美和 稲野辺恵美	渡辺 湊子 岡野 邦江	
事務	渡邊 俊	菊池 和子		
<25年度>				
齊藤 純	細田 美貴	小中澤 香	安江 裕貴	
下山 紋	小金澤里織	堀江 紀子		
<24年度>				
加藤 希	松浦真紀子	井上 光子	前田 進一	
北浦 伸江	徳山 秀明	石田 香織	山田 洋一	

(◎は研究主任、○は研究推進委員)

講師紹介

目白大学人間学部児童教育学科教授

多田 孝志先生



現 目白大学人間学部学部長、
児童教育科学科長 兼任。ま
た、青山学院女子短期大学国
分学科非常勤講師、東京大学
教育学部兼任講師、学習院大
学非常勤講師、立教大学大学
院異文化コミュニケーション
研究科兼任講師。

著書：『地球時代の言語表現』（東洋館出版）
『対話力を高める』（教育出版） 他

終わりに

副校長 菊池 健

多田孝志先生には、3年前の出会いから、今年度の自主発表会に至るまでに、どれほど多くのご指導・ご支援を得たことでしょうか。対話型の授業とはどんな授業なんだろう、どんな手だてを用意すれば対話型授業が成立するのだろう等々試行錯誤を繰り返し、教職員自身も子供たちも成長できました。

まずは「聴く力」の育成を出発点にして、対話力の重要性を理解し、対話型授業の創造へと思考を深め、授業観の変革まで到達することができました。

まだ未熟な面もありますが、これまでの多田孝志先生のご指導・ご支援に感謝の意を表するとともに、保護者、地域の皆様の本校の教育活動へのご理解・ご協力に感謝いたします。